



千葉大学医学部同窓会報 第110号

題字 故 鈴木五郎 (大11卒 元るのほな同窓会長)

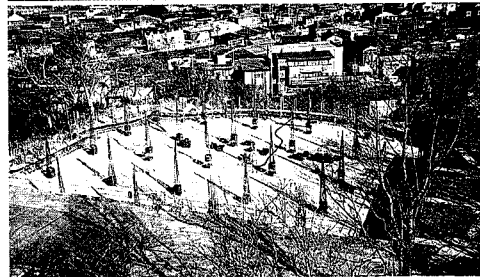
編集発行者
千葉大学医学部
るのほな同窓会報編集部
〒260 千葉市中央区玄鼻1-8-1
千葉大学医学部内
るのほな同窓会
電話 (043) 222-7171 内線5026

附属図書館の建設始まる 玄鼻分館の完成予定

平成8年6月 完成予定

永年の念願であった図書館玄鼻分館の新館が決まり、本館(旧病院)の北側の敷地に現在急ピッチで工事が進められています。地上三階、半地下一階、建築延べ面積約三六三〇㎡で、正面は本館の風格にマッチして古典的ですが、裏の崖側は丸味を帯び、飾りもついて、大学の建物としては小粋な感じが出るように設計されています。機能としても、ヘルプサイエンス情報図書館として新しい時代の要望に応えられるよう十分に配慮され、関係者は国立大学の医学系図書館として最高のものになるとう意気込んでいます。

新館に至る経緯ですが、現在の施設は昭和46年に竣工した管理・閲覧部のみが固有のもので、書庫は旧医学部基礎棟の研究室を転用しており、昼間でも暗い状況です。その上、床が弱いため、雑誌のバックナンバーは分散しており、利用上不便をきたしております。時代の要請に応えられないということで20年近くも前から新構想の図書館が求め



られて要求が始まりました。中だるみの時もありましたが、数年前から再び気運が高まり、多くの教官と事務局の力を結集できるようになりました。

建築委員会の先生方は、激務の間をぬって、東京近辺の大学、さらに東北大、阪大、山口大、金沢工大などの注目される図書館を見学し、情報を収集し、新図書館の構想をまとめました。平成6年度の千葉大学概算要求の施設関係で第一位となり、翌7年度再び第一位の要求でようやく文部省に認められました。最近の概算要求は、大学およびその

キャンパスが明確な長期目標を設定し、その施設がそこでどのような性格と役割をもつかを示さないと成功しません。たんに古いということでは認められないのです。新図書館の基本構想は、第一に電子メディアにも対応した情報センター機能、第二にそれを駆使した強力な教育・研究支援機能であり、第三に地域医療支援機能をさらに整備する一方で、学内の研究室から、また地域の主要医療機関から電子回線により情報サービスが受けられるようにし、また図書館に備えられたビデオ・ディスクを、離れた各講義室から遠隔操作で利用し、内容をそこに映し出せるようにして授業の効率を一挙に向上させようという

企画もあります。このほかにも、研究成果や歴史的資料を解説付きで展示する博物館の活動も必須のものです。以上のようにサービスは発展が期待されますが、図書館職員が削減されるなど

で運営は苦しいものです。従来にもまして利用者の協力と支援をお願いいたしました。また同窓の先生方にも暖かい御支持と御援助を賜るようお願いいたします。よく育てることによって大

るのほな同窓会賞候補者募集要項

- 一九九五年のるのほな同窓会総会において、本賞の創設が決まり(規定別記)、第一回(一九九六年度)の受賞候補者を募集することになりました。学外および学内からの応募を左記により受け付けます。
- 一、受賞対象者 本会員のうち、医学研究あるいは医療活動の顕著な業績により、学術的あるいは社会的に高い貢献をした個人またはグループ。
- 二、表彰 三件以内、賞状ならびに副賞(総額百五十万円程度)を贈呈します。
- 三、応募方法 所定の申請用紙により、一九九六年二月十五日から三月十五日までに申請して下さい。
- 四、受賞者の決定 常任理事会の議を経て、一九九六年度の総会にて行われます。
- 五、問い合わせおよび申請用紙請求先 千葉大学医学部内 るのほな同窓会事務局

会費納入について のお願い

…本年度会費未納の方に振込用紙を同封しましたので、三千円を納入して下さい。なお行きがけに振込まれた方、会費免除の方(卒後五十年経過の会員および名誉会員)、銀行振込の方に届いた場合は、ご容赦下さい。

第1回「千葉県るのほな会」 総会開催のお知らせ

日時・平成8年4月11日(木)
午後5時30分
場所・千葉京成ホテル
会費・一万円
千葉県内在住の先生方には、懇親を深めたいので、是非御参加下さい。
発起人代表・渡辺 武

最終講義及び 退官記念式典

- 最終講義
○永野 俊雄教授
演題「電子顕微鏡で見た細胞の世界」
○橋 正道教授
演題「生化学研究の流れの中に」
日時 平成8年2月9日(金)
午後12時50分
場所 医学部記念講堂
(永野・橋両教授の最終講義は合同で行われます。)
○島崎 淳教授
演題「前立腺癌のホルモン依存性とその喪失」
日時 平成8年2月14日(水)
午後3時30分
場所 附属病院第一講堂
退官記念式典(合同)
日時 平成8年3月16日(土)
午後2時
場所 附属病院第一講堂
○記念講演 午後3時30分
演者 千葉大学名誉教授 柏木 繁男氏
演題「人的事故の発生防止とクレペリン型加算検査」
○祝賀会 午後4時30分
附属病院第三講堂

学のシンボルである図書館はより大きい価値と利益を利用者に還元してくれるものと考えております。
(分館長 橋 正道
生化学第二教授)

る の は な 随 想

加納 六郎 (昭和20卒)

私は昭和16年4月に千葉

医大へ入学した。亥鼻台に

建った東洋一の大学病院は

誠に見事であり、正門を入

った処の櫻は満開で、素晴

しい大学へ入ったものだ

と感激した。ところが当時の

千葉市内は道路が狭く、雨

が降るとぬかるみとなっ

て、何と汚い街かと驚いた。

その代わりいろいろと自然

が残っていて、大学の下を

流れる小川には小魚がいて、その向こうは田圃で、

蛇や蛙が沢山いて、鳥や昆

虫も多かった。私は高校の

同級生3人と一緒に来光寺

というお寺に下宿していた。

皆動物好きで、アオダイ

ショウ、シマヘビ、ヤマカ

ガシを捕らえてきて、飼育

箱に入れて戸棚に隠して、

蛙などを与えていた。ある

日、蛇の大嫌いな和尚さん

に見つかって、うんと怒ら

れ、蛇を捨てて、君達が

寺を出るかと言われ、止む

なく記念写真を撮って田圃

へ逃した。当時はキャンパ

スの中にも自然が残ってい

た。鳥や昆虫が豊富であり、

同好の友人と沢山の昆虫を

採集した。この標本は幸い

戦災を免れ、数年前に千葉

県中央博物館に寄贈した。

私が入学した年の12月8

日に第2次大戦が始まり、

街の娯楽施設はほとんどな

くなった。私は翌年陸軍委

託学生となったため、夏休

みは毎年軍隊で新兵教育を

受け、さらに短縮繰り上げ

卒業ということで、土曜日

も夕方まで授業があつて、

3年間の在学中、全く遊ぶ

ことはできなかった。卒業

前の授業では、気管切開な

ど戦時に役立つ救急医療が

多かった。

私は3年の夏に肺炎で半

年休学したので、昭和20年

4月に1年下のクラスの人

達と一緒に卒業することに

なった。卒業前の数ヶ月間

は瀬尾外科に入つて、中山

恒明先生の胃の手術や鈴木

次郎先生の頸動脈の助手

をやり、100例以上の動脈注

射を経験した。今でも中山

先生には大変信用があると思

っている。

昭和20年4月に陸軍軍医

学校に入校したが、入校早

々に牛込の校舎は戦災で消

失し、急遽山形の旧制山形

高等学校内へ移動し、そこ

で8月の終戦までを過ごし

た。前年までは通いで1年

間の軍医学校生活であつた

が、私は営内居住の4ヶ

月に短縮され、朝5時から

夜10時までの訓練は極めて

厳しく、えらい所へ入って

しまったと後悔し、卒業の

日を指折り数えていた。

8月15日の終戦の日は、

作戦で新潟へ出張中であ

り、その晩は区隊長を困ん

で、その後の方針について

大論争が起こった。結局翌

日山形へ戻り、地下へ潜っ

て再起を期すようにとの訓

示があつて、教程などを全

部焼いて、即日全員退校を

命ぜられた。

その時は米軍が東京に上

陸し、ソ連が新潟へ上陸す

るとの情報があつたので、

私は慈大出身の佐伯見習士

官と2人で、モーゼルのピ

ストルに80発の実弾と、軍

刀2振りを持って、兄が院

長をしていた群馬県の伊勢

崎病院へこがり込んで、

私は外科、佐伯君は内科へ

配属された。翌年上京して、

渋谷で兄の病院の留守預か

りをして、渋谷医師会に入

って、外科開業の経験をし、

夜は慈恵医大の病理学教室

へ通つて夜中まで勉強した。

昭和23年に東大伝染病研

究所の佐々木先生に弟子入

りして、医動物学を学んだ。

そして昭和27年に東京医科

歯科大学で寄生虫と衛生害

虫の講義実習を受け持つた

めに講師として迎えられ

た。もちろんその当時は独

立講座はなく、数年間は、

衛生学、農村医学などの教

室に寄生して不安定な生活

を送った。昭和32年に公衆

衛生学の講座が出来て、初

代教授となり、昭和38年に

医動物学の講座ができて、

それに移つて、やっと足が

地に着くことができた。そ

の後昭和52年から55年まで

医学部長をやり、昭和60年

から平成3年まで学長を務

めて退官し、今日に至って

いる。

その間クラスメイトの井

出源四郎君とは不思議な縁

があり、学生時代は同じグ

ルッペで勉強し、2人だけ

がツベルクリン陰性で珍し

がられ、同時代に医学部長

も学長もやることになつ

た。また政府の無償供与の

北京の中日友好医院の設立

委員も一緒にやって、北京

へ同行した。そのような縁

で今でもとくに親しく付き

合っている。

5年間毎年北條氏の世話で

長野に集まって、公開の教

育シンポジウムを開き、そ

の後で温泉巡りをして露天

風呂に入つて裸の付き合い

をしている。井出元学長の

ヘアヌードの写真もある

が、誰も買つてくれない。

医歯大退官後、埼玉医大

の客員教授をしていたが、

これも平成7年4月に辞し

て、今は国立科学博物館に

客員として週2回通つて、

私が40年間に集めた世界の

蠅の標本約10万匹の整理に

追われている。一方昨年は

からずも日本学術会議会員

を拝命し、多忙な生活を送

っている。また昨年から千

葉県史料研究所の依頼で、

千葉県の蠅を調べることにな

り、清澄山の東大演習林

の原生林をはじめ溪流、海

岸、湖沼、水田、牧場、山

林原野を歩き廻つて、かな

りの成果をあげている。

私の専門が医動物学・熱

帯医学であつたため、南米

アフリカ、南アジア、南太

平洋諸島などの瘴癘の地を

約25カ国廻り、いろいろ危

険な目に遭遇したが、中で

も昭和51年に会ったイラク

のバグダッド空港での爆発

腕に入つて大出血をした。

そのためひどい難聴に今も

悩まされている。

昨年の9月15日敬老の日

に区からお祝い金とクッ

キーをもらつて、いよいよ

老人の仲間入りをしたが、

まだやり残したことが山程

あつて死ぬわけにはいかな

いので、健康に留意して頑

る の は な 同 窓 会 賞 選 考 規 定

(目的と対象)

第1条 本規定は本会会員のう

ち、医学研究あるいは医療活

動の顕著な業績により、学術

的あるいは社会的に高い貢献

をした会員(個人またはグ

ループ)に、るのな同窓会

賞を授与し、これを顕彰す

ることを目的とする。受賞対象

となる活動は国の内外および

地域を問わない。

(同窓会賞選考委員会)

第2条 本会に同窓会賞選考委

員会を置く。

同窓会賞選考委員会は、会

長の諮問に応じ、るのな同

窓会賞の候補者の選考に関す

る事項を調査審議する。

委員会は応募者の中より5

件以内の受賞候補者を選考す

る。

(選考委員)

第3条 選考委員会の委員は、

るのな同窓会常任理事会が

6ないし8名の委員を推薦

し、るのな同窓会長が委嘱

張っている。どうも全く個

人的な事ばかり書いてしま

ったが、今の平和な時代に

は思いもよらない激動の時

代を過ごした経験をお伝え

したいと思つたので、お許

しいただきたい。千葉大学

とるのな同窓会のますます

の発展をお祈りする。

する。

委員の任期は、2年とし、

半期に半数を改選する。委員

は再任されることができる

が、連続2期までとする。欠

員が生じた場合の補欠の委員

の任期は、前任者の残任の期

間とする。

委員の互選により委員長を

おく。

(組織および運営の細目)

第4条 前条までに定めるもの

の他、組織および運営の細目

については常任理事会の承認

を得て選考委員会が定める。

(申請応募の原則)

第5条 同窓会賞受賞希望者は、

同窓会賞募集要項に基づき、

所定の申請書に必要事項を記

載し応募するものとする。

募集要項は、るのな同窓

会報に掲載される。

申請は自薦・他薦を問わない。

(受賞者の決定)

第6条 委員会が選考した候補

(3面(続)

国立習志野病院院長就任の挨拶

五十嵐 正彦 (昭34卒)



平成7年4月1日より国立習志野病院の院長を拝命しました。有賀 光(昭23卒)、香田真一(昭31卒)の両・現名誉院長に続いて7人

さな研究室でした。昭和52年4月から国立習志野病院に転じ、第一内科奥田邦雄、大藤正雄両教授のご指導・援助を頂きながら消化器科医長と副院長を務めました。当院は明治33年習志野衛

も関連教育施設としての指導を頂いているのが現状です。副院長の伊藤文雄(昭37卒・外科)以下19診療科、常勤医師36人、定床450(うち伝染病棟50)、学会認定施設の指定14で、東葛南部医療圏に属し習志野、船橋、八千代、鎌ヶ谷の4市と千葉市の一部が診療圏です。東葛南部圏には他に公的病院が船橋市内に3施設あるのみで私立施設の多いのが特徴の一つでしょう。人口急増した首都圏のベッドタウン、東邦大学や日本大学が隣接する学園都市かつての軍都などが土地の案内文句ですが、人生希望寮の名前を懐かしがられる先輩方は夕方のJR津田沼駅前の若人の群を見て時代の推移を実感されるはず

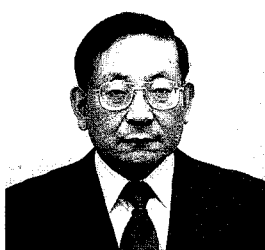
第6回国際食道疾患会議に出席して
杏林大第二外科教授 花岡 建夫(昭33卒)

1995年8月23日から26日に開催された第6回国際食道疾患会議の世界大会に出席しました。International Society for Diseases of the Esophagusは、同門の中山恒明先生が、東京女子医大消化器病センターに在任中、世界の食道疾患に関係する学者をまとめて、世界大会を開催できるよう努力なされ、1980年11月10日・11日の2日間東京の経団連会館で、第1回大会を開催しました。この会は、その後3年毎に開かれています。第2回はローマ大学、第3回はミュンヘン工科大学、第4回はシカゴ大学でした。第5回は杏林大学名誉教授鍋谷欣市先生が会長で1992年8月5日・8日京都国際会議場で盛大に行われました。小生もsecretary generalとして会の開催に努力しましたので、この会が益々発展するよう願っている一人です。

(2面より続く)
者のうちから、常任理事会がさらに審議を行い、るのはな同窓会総会にて受賞者を決定する。
(賞状および副賞)
第7条 受賞者には本会より賞状および副賞を贈呈し、受賞対象となった業績、氏名をるのはな同窓会報に公表する。
副賞の金額は、常任理事会の承認を得て、別途これを定める。
(記念講演)
第8条 受賞者はるのはな同窓会総会にて記念講演を行う。
付則
本規定は、平成7年6月24日から施行する。
* ~~~~~ *

第34回日本癌治療学会会長に就任して

昭和大学内科教授 栗原 稔(昭36卒)



平成7年9月23日に、日本癌治療学会会長に就任しました。本学会は、中山恒明先生が中心になって作られ、本部は京都にあります。が第2回は千葉市で開催され、これまでに本学からは、中山、三輪、寛、北村、市川(平)、の諸先生が会長をさ

れしました。会員数一万七千人で約半数を占める外科の他、内科、婦人科、泌尿器科、放射線科など14科および病理学、生化学、疫学などの基礎部門からなり、総会参加者は六千七千人という大規模な学会です。
小生は、昭和36年に千葉大医学部を卒業後、第一内科国立がんセンター、順大内科、埼玉医大第三内科などを経て昭和57年8月から昭和大学内科教授に就任、附属豊洲病院に勤務し、平成5年4月から副院長を兼務しています。この間、一貫し

て消化器癌の早期発見、癌化学療法の研究を続けて参りました。
一年前の評議員による副会長選挙には、推薦人代表の恩師故白壁彦夫順大名誉教授、本学二外磯野教授他中山先生御一門、本学出身の評議員の諸先生の強力な応援を賜り当選できました。ここに改めて感謝申し上げます。
四人に一人が癌死する時代を迎えて、本学会の責務は重大ですが、平成八年十一月一日三日の東京国際展示場における第34回総会には、同窓の皆様も多数御参加、御発表下さいますように心からお願ひ申し上げます。

当院は地域の中核病院として市民からも地元医師会からの先生方からも高い信頼を得て来たという自負があり、実によく働く誠実な職員が誇りです。近年、国立病院の人や予算の縛りは殊の外厳しく、当院も再編成計画という激浪の真只中におりますが、近き将来、21世紀を見据えた更なる充実の実現を願って努力中であります。同窓の皆様のご理解とご支援を心からお願ひ申し上げます。

第6回世界大会は、イタリアのミラノ大学外科のPeracchia教授が会長で開催されました。会場はミラノ大学でした。イタリアの大学は1000年以上の歴史を有する大学がありますが、この大学も古い歴史を示す彫刻のある建物で、夏休みで空いているいくつかの講堂を使用して会が行われました。ミラノ大学はイタリアの頂点に立つ大学とのことです。建物やスペースの広さをうらやましく感じました。
この会には、日本から100名以上の方々が参加されていましたが、同門の方では、鍋谷名誉教授、医科歯科大の遠藤教授、千葉大第二外科磯野教授、その他二外の先生方も数名参加され、それぞれ活躍なさっていました。
会の内容は、良性疾患から悪性疾患と幅広い演題があり、悪性疾患については我が国のレベルは高いと考えられますが、良性疾患については学ぶところが多くありました。トピックスとしては、食道癌の手術も胸腔鏡下で切除されるようになった事でしょう。
会長招宴では、ミラノよりバスで約1時間半のComo湖Villa Erbaで古めかしい建物や音楽と共に変化する噴水のショーを楽

し、この間は、一貫して心からお願ひ申し上げます。

会場のミラノ大学は1000年以上の歴史を有する大学がありますが、この大学も古い歴史を示す彫刻のある建物で、夏休みで空いているいくつかの講堂を使用して会が行われました。ミラノ大学はイタリアの頂点に立つ大学とのことです。建物やスペースの広さをうらやましく感じました。

この会には、日本から100名以上の方々が参加されていましたが、同門の方では、鍋谷名誉教授、医科歯科大の遠藤教授、千葉大第二外科磯野教授、その他二外の先生方も数名参加され、それぞれ活躍なさっていました。

会の内容は、良性疾患から悪性疾患と幅広い演題があり、悪性疾患については我が国のレベルは高いと考えられますが、良性疾患については学ぶところが多くありました。トピックスとしては、食道癌の手術も胸腔鏡下で切除されるようになった事でしょう。

会長招宴では、ミラノよりバスで約1時間半のComo湖Villa Erbaで古めかしい建物や音楽と共に変化する噴水のショーを楽

各地るのはな会だより

第1回東京るのはな会支部長会議

平成7年7月8日の東京

四、支部長会の議事録は総務担当支部長が記録保存する。

るのはな会総会にて会則を変更し、従来の常任理事、理事制を廃止し、都内各地の同窓会運営経験者を、区内7支部から支部長として選出し、又新しく勤務医部会を設けた。会員の親睦福祉を増進する目的の本会の運営は支部長会で行うこととなった。10月12日に初会合を開き次のような決議をした。

一、総会出席者から戴いてきた会費徴収法を改め、年会費5000円は支部長、勤務医部会長が責任を持って集金し、会員の所属意識を高め、同窓会報発行、名簿発行を定期的に刊行できる財源を確保する。

二、経理からの出金は各支部長のサインによる事とし、従来の印刷代支払い遅延等の迅速化をはかる。但し、支部長は事前に会長の承認を得ることは勿論、出金全額につき個人責任を負う事とする。

三、平成8年新年会は1月13日(土)午後5時から椿山荘にて開催する。

三、平成8年新年会は1月13日(土)午後5時から

城西支部長小杉秀雄(記)

北陸のはな同窓会

平成7年8月19日千葉大学医学部長の高橋英世小児外科学教授をお迎えして、北陸のはな同窓会が富山市奥田家で開催されました。東京では記録的な暑さとのことですが、当地でも連日の猛暑で、そのなか13名の方が出席されました。

野本昌三先生(昭32)にはご病氣から全快され、おいでいただきました。

会是小西善磨先生(専18)のご挨拶、引き続き片山番富山医科薬科大学副学長・付属病院長(昭30)の乾杯のご発声で宴が始まりました。高橋医学部長よりの千葉大学の近況についてご報告があり、その後各人の自己紹介を交え、会は終始和

気満々に進み、半数以上の方が二次会に繰り出し遅くまで盛り上がりました。次回は高岡市民病院整形外科部長の山田均先生(昭48)、富山医科薬科大学眼科助教授山本修一先生(昭58)に幹事をお引き受け頂き散会となりました。

埼玉のはな同窓会

平成7年8月27日、酷暑の中、埼玉支部総会がもたれました。県各地より四十数名参集し、総会は県医師会大講堂にて行われました。物故者への黙祷、つづ

いて水間支部会長の挨拶があり「長寿」「叙勲」のお祝い、会務会計報告が行われました。引きつづき、遠路御来駕いただきました眼科教授安達恵美子先生より、「最近の眼科について」、医学部長高橋英世先生より「学内事情」「学内事情」について伺いました。

出席者 小西善磨(専18)、片山番(昭30)、野本昌三(昭32)、長尾竜郎(昭40)、磯村勝美(昭43)、寺澤捷年(昭45)、濱崎智仁(昭46)、山田均(昭48)、布施秀樹(昭51)、松山幸孝(昭51)、伊藤隆昭(昭56)、山本修一(昭58)、田村須賀子(昭59)。(寺澤捷年、布施秀樹・記)

東京江戸川のはな同窓会

平成7年5月29日東京江戸川のはな会が、市川市栃木屋にて、るのはな同窓会会長、井出源四郎元千葉大学長及び第3内科の増田善昭教授をお迎えして開催された。久しぶりののはな懐古の話が盛り上がり、現在のキャンパスの紹介など行われたあと、井出先生の美文調の名調子が響きわたり、酒肴の味もさえ、百二十年の歴史を持つ純日本風の料亭の夜は更けてゆきました。当日は江戸川のはな会長に村瀬靖先生(昭30)を選出、初めて江戸川のはな会に出席された新会員もあり、若い方が段々と増えるのは心強い限りです。



「順天堂」が興り、蘭方医学には大へん先進的な縁の深い土地であり、その頃より現代の顕微鏡下の手術、各種レーザー治療に至るまでのお話を大へん興味深く伺いました。学内事情では現時点での学生教育のむづかしさ等々、大学の色々の問題について伺いました。



安達先生からは千葉県が蘭方医学に恵まれ、天保14年、松本良順の父、佐藤泰然により、佐倉に蘭方医学塾

会の中に終わる、来年会を期待して散会いたしました。(石井邦夫・昭26・記)

ゐのはな会群馬県支部総会

平成7年11月18日、ゐのはな同窓会群馬県支部の総会を前橋市の「マリーキュリーホテル」内の「秀峰」で開催しました。支部長の平形義人先生(昭19)の開会の挨拶があり、群馬県支部の会の建て直し並びに今後の運営の見直しの必要から、支部の会則の変更と名簿の改編をしたこと、又、平成6年10月、井上 清先生(昭20)が急逝された為、副会長に沖 眞澄先生(昭22)をお願い致し、総務を任せたと、又、会の運営を円滑にするため、群馬を4地区に分け、夫々の幹事に西村忠雄(昭32)、中田



透先生(昭56)、保阪亜莉沙先生(昭48)が入会され、群馬も一度に若返ったような感じでした。食べ且つ飲むほどに話がはずみ、和気藹々とした雰囲気一同楽しい一夜を過ごすことが出来ました。御尊父が千葉大第二外科出

身であった関係から特別会員として群大第一外科の長町幸雄教授も毎年ゐのはな会に出席されていますが、現群大病院長として、大学も親方日の丸でなく、診療や機構に対する意識の変革が必要であると、大変、詳細にお話がありました。最後に再び貫洞先生にお願いして、会の締め括りをしていただき、散会した。

平成7年度 松戸ゐのはな会報告

平成7年度ゐのはな会松戸支部の総会は、11月21日(火)に松戸ニューオータニで行われた。任期満了にともなう役員改選で新会長に熊谷哲夫(昭40)、副会長に小幡五郎(昭36)、武井孝達(昭41)、幹事に松島保久(昭47)が選出された。続いて講演会は、魚住顕正(昭45)座長のもとで、千葉大学脳神経外科山浦晶教授の「脳卒中―好発年齢を迎えた人のために」というタイトルで行われた。「脳」の時代に対する欧米の先進性、日本の対応の遅れの話に始まり、脳出血、脳梗塞の臨床症状のわかりやすい解説から、ビデオによる手術中の、迫力ある動脈瘤出血のシーンなどを含め、現在の脳神経外科の最

(写真 敬称略) 前列左から 沖 眞澄、平形義人、北村英吾、長町幸雄、貫洞一夫、亀井清安、佐藤進一、赤松夫人、後列から本島倭司、西村忠雄、根本幸一、山口隆久、中島 透、保阪亜莉沙、小林けい子、中田益允、船曳 甫、小林道生、田中敬明、赤松弘光、以上20名。
(西村忠雄・昭32・記)

先端の話、脳検診への賛否両論の話題など、興味尽きない話ばかりで、充実した一時を過ごすことが出来た。続いて行われた懇親会では、出席された方のうち最長老の、高山直清先生(昭15)のご発声による乾杯のあと、山浦教授により千葉大学の近況と未来についての話題、新入会員の紹介、全員の近況報告がなごやかにかわされた。しかし、脳細胞に対するアルコールの弊害の注意を受けたばかりにもかかわらず、大量の不健康飲料が消費され、幹事としては、その後の皆様の安否が気づかわれる次第である。

第20回ゐのはな 美術展開催される

平成7年度ゐのはな美術展は例年通り、東京銀座、集雅堂ギャラリーで7月11日から7日間開催された。今年は出品者23名、不出品者3名その他特別出品者として3名の医学部学生が参加して、作品数40点の盛会でした。加瀬幸雄(昭22)、神作憲司(平7)の2名が新たに参加しました。桜田精一画伯の懇親会における総評は、単なる説明や技巧に走ることなく、のびのびと描く楽しさを味わって下さいというものでした。20回展を記念して、ゐのはな美術展20年史を会員の総力を挙げて刊行しました。予期以上の充実したものになりました。大学図書館、同窓会本部、東京ゐのはな会、医家芸術及び各大学の美術部などに送付致しました。各方面から今後の発展を期待する手紙をいただきました。本年度の作品は次のとおりです。



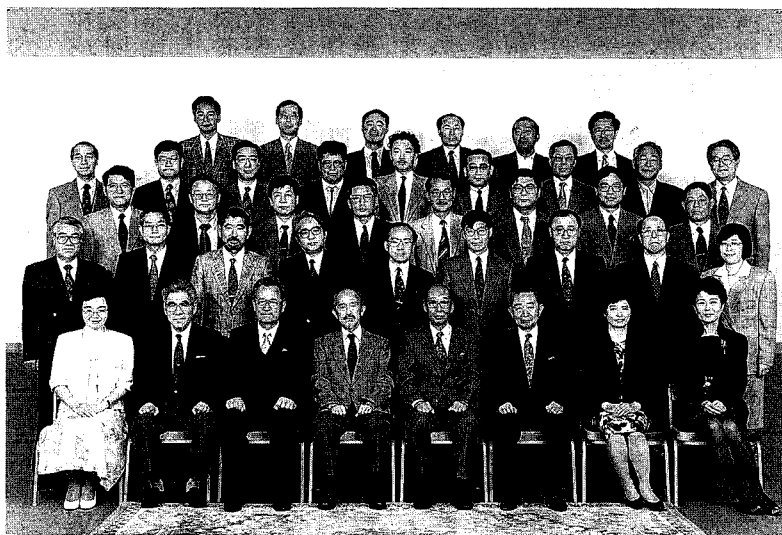
石谷治彦(昭24) ①婦人像 10号水彩、②花10号水彩
大木勲(昭38) 秋の筑波山 ろく10号油彩
長谷川鎮雄(昭35) 風景20号油彩
山口宗彦(昭38) スーベニー 8号油彩
山川晋吾(昭24) マリオネット15号油彩
今井 力(昭22) ①安曇野 風景6号、②ポルトガル 風景8号油彩
井上 通(昭24) 憧憬No.1 No.2 10号水彩
大村 光(昭17) ①夢20号 ②イギリス10号油彩
仲村長正(昭29) ①帰らざる河10号、②レイク・ル イーズ8号油彩
川村孝子(昭36) ①ミモザの花のある静物15号、②小石川後楽園初秋6号水彩
加瀬幸雄(昭22) 桃李成蹊 68×35書
神作憲司(平7) 鳳凰40×50日本画墨彩
渡辺栄三(学生) 安芸の宮 島77×60アクリル画
杉野恭子(学生) 海岸40×45水彩
新妻ゆり子(学生) アニタ・ベーカー8号油彩
ゐのはな美術展事務所
東京都新宿区 高田馬場1-25-29
TEL 03-3200-0078
石谷医院 石谷 治彦(昭24)

クラス会

もぐら会

(昭和23年卒)

恒例のわが「もぐら会」は平成7年9月9日、東京パレスホテルで開催された。集いし者29名、現存96名中30%はやや少ないか。西村、藤崎両幹事司会のもと、まず前年度に物故された牧野一郎君(二内、ト



ヨベツト診療所)、中村敏紹君(産婦、長生病院)の冥福を祈って黙祷を捧げた。次いで、毎度御苦労ながら萩原君による、医学部の教授人事その他現況報告もあり、時代の変遷を思う。次いで、お互いの健勝を祝して乾杯。勲四等旭日中綬章叙勲の宮崎隆次君に花束贈呈、同君より挨拶謝辞あり、続いての懇親の輪は大きく小さく、その集まりを変え愉快に続いた。話題が、敗戦50年の今年を経て既に古希となりし我々として今

45卒クラス会

後の生涯のあり様についての覚悟と理想に帰結するのは誠に宜なるかなと思う。ここで図らずも、マッカーサー元帥愛誦のサミュエル・ウルマン作の「青春」が思い出される。曰く、「青春とは人生のある期間を言わず、心の様相を言う、創造力、意志、情熱と共に、怯懦を却け安易を捨てて心、これらの様相を青春という。これは七十であろうと十六であろうとその胸中に抱き得るものは何か。大地より神より人より、美と喜悅、勇氣と壮大偉力との靈感を受ける限り、人は若さを失わない」。参会者一同昔年にもどり談論風発、意気軒昂、再会と参会者の増加を約し、会を閉じた。次期幹事は前田裕、松山茂両君と決定した。

出席者：有賀光・伊東和人・岩間定夫・上野高次・大津饒・木村滋・工藤興一・窪田金次郎・窪谷満雄・黒須吉夫・斎藤嘉一・柴田鐵郎・杉山静也・高村良平・寺田俊郎・戸澤澄・奈良四郎・西村文夫・萩原彌四郎・平岡眞・藤井日出男・藤崎滋・堀江昌平・前田裕・松山茂・宮崎隆次・吉岡宏三・吉田作・吉田亮。

(伊東和人・記)

昭和45年卒業の私たちは今年で卒業満25年の節目を迎え、平成7年6月17日(土)34名が参加して幕張プリンスホテル4階でクラス会を開いた。今回は千葉で最も変貌著しい場所と言うことで幕張メッセを会場に選んだ。幹事で司会の花輪孝雄君の開会の挨拶に続いて卒業後亡くなった足立郁夫君、大熊秀一君、菊池洋君、山崎紘之君の4名に黙祷して開会した。

桑田次男先生、萩原彌四郎先生、稲垣義明先生の3人の恩師の方々から私たちの年代はこれまでの努力の収穫の時期に入っており、悔いのない人生を送る計画を立てる時期であるとの人生の先輩としてのあたたかいお話をいただいた。(遅れて来られた奥井勝二先生には後で45卒との思い出などを話した。)次いで高橋英世医学部長より最近の学内事情や学生教育の現状などのお話のあと高橋先生の乾杯の音頭で開宴した。

しばし食事・歓談のあと教授就任時よりも医局員が40名もふえて150名になった



という東大第二内科教授の小俣政男君と、テレビなどマスコミに登場することも多い富山医科薬科大学和漢診療部教授の寺澤捷年君の挨拶があった。2人の出世は私たちと同じクラスの人達にとっても名譽であるとの声が多かった。その後、遠方から参加した人や久しぶりに参加した人達の近況紹介があり、最後に私たちのクラスで現在シャッソング手としても活躍中の宮園洋子さんの歌を楽しんだあと記念撮影して一次会を終えた。

た。

その後参加者のほとんどが46階のスカイバンケットルームでの二次会に移り、美しい幕張の夜景をみながら学生時代の思い出やお互いの近況などに話がはずんだ。今回は東京で2年後に開催することと林泰君ら次回幹事を決めて散会した。

在学当時は学生紛争のはげしい時代であったが、25年たった現在和氣藹々とした楽しい会であった。(幹事：中野義澄 記)

おくやみ

田中 實(大9)
辻本賢之助(昭9)
青沼 武雄(昭10)
藤 彰(昭12)
大塚 潔武(昭12)
大槻 頼雄(昭12)
久保田正助(昭13)
朝岡 至(昭16)
飯田 毅(専17)
手島 一(専18)
安保 隆文(昭21)
森田淳之助(昭21)
古谷 直人(専24)
田中 穰(昭28)
外間 孝雄(昭37)
田原 和夫(昭54)

「千葉大学医学部 八十五年史」

「千葉大学医学部 百周年記念誌」

「千葉大学医学部 同窓会名簿」

右の記念誌および名簿に残部がありますので、希望者には進呈いたします。詳しくは事務局内線五〇二六にお問い合わせ下さい。

四金会・常任理事会開催のお知らせ

日時 平成8年2月28日(木)

常任理事会 午後4時

四金会 午後5時30分

場所 千葉駅ビル・ペリエホール

日時 平成8年4月24日(木)

場所 同窓会館予定

38会ゴルフ

(38年卒同窓会) コンペ開催さる

さる平成7年7月16日(日)、真夏にしては涼しい薄曇り絶好のゴルフ日より箱根芦ノ湖畔ゴルフクラブに於きまして、るのな38会ゴルフコンペが開催されました。当日参加したものは、厚生省健康政策局長の谷 修一、名古屋市長の松井宣夫初め、

沖田正彦、尾崎賢太郎、加藤友衛、木下昌、金城和夫、香西襄、田中満、寺島市郎、成瀬孟、新堀茂、野本泰正、原紀道、平井昭、三井静の4組16名の面々で、リゾートコースでの和気あいあいのクラス会コンペとなりま

した。前夜は近くの「パレスホテル箱根」に全員集合し、見晴らしの良い6階の大広間にて浴衣掛けのクラス会宴会が開かれ、ゴルフをしない二名(小林晴夫、嶺井進)も参加され夜遅くまでのくつろいだ宴席が開かれました。

来年のクラス会(夫婦同伴可+ゴルフ)は沖繩の嶺井進君のホテルで、同君の幹事で開催が決定しました。ちなみに今回のゴルフの優勝はクロス87(43・44)ネット64の木下でした。

(木下 昌・記)

昭三一会

(昭和31年卒)

平成7年7月15日、明春に横浜市立大教授を定年退官する蟹沢君と、本春に国立横浜病院院長を定年退職した高野君の両名の幹事役で、横浜港未来21地区にある、横浜グランドイン

ターコンチネンタルホテルの最上階(奇しくも31階!)の「驍騎」で開催された。クラス会は歓談が始まってしまつと、せっかくの各人の近況報告が聞こえな

なる。そこで今回は宴の前

ら部屋を変えて、中華料理を囲むという趣向で、これは大変に良かった。地元横浜生まれの井幡君の「横浜市歌」を清聴した。本誌一〇八号に大野俊雄先輩が三一会(昭和六年卒)は高齢のため、平成元年の会が最後となったので、同名の昭三一の隆昌を祈る、と記して下さった。

昭三一会の現役組は昭和六年に生まれている。その一九三一年に三一会の先輩は本学を卒業された。三一会と昭三一会は奇縁だと私は思う。今回の出席者二十七名中の三名が女性。本誌一〇六号に記したように、わがクラス八〇名中三名の女子学生は本学医学部最初の女子学生である。つまり、

女子は全員出席で、七名の物故会員は男子ばかり。現本学の女子学生は四割に近い。最後のクラス会は女子だけになるのでは。

来年の卒後四〇周年は本学山口豊教授の幹事役で、幕張メッセの予定。

出席者：猪狩好令、井幡安、庵原昭一、上原すず子、大島一浩、小野清四郎、川上秀一、北川定謙、相楽恒俊、志村公男、杉山伸子、関光倫、関山明美、辻輝蔵、徳山輝男、中野喜久男、西澤護、西原源太郎、松丸信

27会

(昭和27年卒)

毎年開いているクラス会。平成7年度は6月17日お茶の水で宴会だけの集まり。9月30日に一泊の旅行を行った。山形高校出身者

(莊司榮徳・住吉孝男)が当番幹事となり、黄田昭光君の協力を得て企画し、参加者は夫人同伴六名を含めて総員19名であった。

初秋の山形名勝・旧跡をデラックスバスで廻り温海

太郎、李保文彦、山崎武、山野元。夫人六名。幹事・蟹沢成好、高野昇。(上野泰一・記)



東医体冬季部門第一回は千葉大学が主管

第38回東日本医科大学体育大会(以下東医体と略)

冬季部門を千葉大学が主管し今冬開催されるとの事で成功を祈っているが、千葉大学が初めてスキー大会を昭和35年1月万座スキー場で開催し第一回大会として

ご紹介したい。参加大学は10大学で、種目は滑降・大回転・回転のアルペン3種目であった。総合成績は、①昭和医大、②岩手医大、③千葉大で、

温泉萬国屋泊まり。翌10月1日は羽黒山に参拝して、メーの最上川船下り。船頭の歌う最上川舟唄に聞き入り、軽妙な話しぶりに興

記



猪之鼻奨学会

への寄付

(平成7年8月以降)

参旧会(昭39卒)代表 木内政寛(千葉大学教授・医学部) 50万円
小林せつ(故小林金市氏「昭8卒」ご令聞 100万円
千葉大学薬学部 教授退官記念祝賀会 15万円

道・三木亮(国立横浜病院院長)

尚、この大会は、主管校日大の主宰する評議員会で公式なものとして承認された。そして、大会々場には、第2回東医体理事長及び実行委員長、評議員2名が出席している。

個人成績での千葉大入賞者は福士和夫(滑降1位、大回転4位)黒岩瑠光(回転3位)の当時学2(昭37卒)の両氏であった。この大会の企画、運営等一切は、前記2氏をはじめとした写真のような11人のサムライ達でとりしきっている。(当時学2と学1)部長・本間三郎名誉教授昭37年卒・岩倉弘毅・奥山隆保・黒岩瑠光・穴倉正胤・嶋田晃一郎(独協医大教授)福士和夫・森 豊、昭38卒・大木勲・玉置哲也(和歌山医大教授)・原紀

従って、毎年発行される夏季大会公式プログラムの東医体主管校一覧表の夏季大会第2回・第3回の冬季部門が空白になっているが、今度のプログラムから、千葉大学・東京医科大学と明記して欲しいものである。今、書かなければ、第1回主管の歴史が消されてしまふという危機感から、当時第2回東医体評議員を勤めた者として、あえて筆をとらせて頂いた。(青木 謹・昭36・記)

病院勤務医師名簿

千葉県こども病院

院長 船橋 茂昭31小児科

診療部長 眞家 雅彦35小児科

部長 佐藤 剛昭38小児科

部長 眞理昭47精神科

堀江 弘昭44検査部

黒田 紀子昭40眼科

羽鳥 文麿昭48麻酔科

主任医長中村 明昭48小児科

永山 洋子昭48小児科

沖本 由理昭50小児科

衣川 直子昭49小児科

伊達 裕昭昭50脳外科

宮本 茂樹昭51小児科

小松 康宏昭59小児科

青墳 裕之昭55循環器

岡嶋 良知昭58循環器

松永 正訓昭62小児科

伊藤 千秋昭55脳外科

宇田川晃一昭53形成外科

長 雄一昭55泌尿器

松尾 浩三昭55心血管

片山 正夫昭51麻酔科

内田 治男昭59麻酔科

研修医 石和田稔彦平2小児科

諏訪部信一平3小児科

菱木 知郎平5小児科

飯田由美子平4耳鼻喉科

濱野 公明平1泌尿器

田垣内祐吾平1麻酔科

嘱託医 内野 福生平2脳外科

齋藤 武平6麻酔科

松戸市立病院

病院長 篠原寛休群大昭35整形外科

副院長 小幡 五郎昭36外科

診療局長 香西 襄昭38心外科

部長 松島 保久昭47内科

平井 康夫昭50消化器

鈴木 良一昭54臨床検査

村山 紘昭44循環器

小島重幸昭52神内

大野 一英昭47外科

渡辺 寛昭41心血管

藤塚 光慶昭43整形外科

矢島 敏晴昭50理学療法

大隅 昇昭59形成外科

魚住 顕正昭45脳外科

片桐 仁昭56耳鼻喉科

村山 直人昭54泌尿器

田巻 勇次

(弘前大昭42)産婦

萬 伸子昭54麻酔科

林 龍哉昭42小児科

竹内 豊昭41新生児

川村 健児昭43小児科

西出 敏雄昭53健康管

芝入 正雄昭46集中治

岡山 義文昭40内科

木村 亮昭57内科

獅子原孝輔

(旭川医大61)内科

堀江 美正平3内科

石井 敦平4内科

吉村 直樹

(新潟大平4)内科

徳弘 直紀

(日大昭63)消化器

山本 雅史平4循環器

坪井 義夫昭61神経内

山中 泉昭60神経内

大隅 悦子昭62神経内

遠藤 文夫昭52外科

増田 益功昭55外科

金野 千行

(北大昭59)外科

尾形 章昭60外科

永井 基樹昭61外科

宇津見和郎昭47心内

永瀬 裕三昭54心血管

塚越 芳久平2心血管

丹野 隆明昭57整形外科

篠原 裕

(埼玉医大昭58)整形外科

品田 良之昭58整形外科

神川 康也平2整形外科

西山 裕孝昭49脳外

田町 誓一昭49脳外

柴田 晃一昭58脳外

山中 康久昭63耳鼻喉科

北川 憲一昭60泌尿器

永田 真樹平3泌尿器

伊澤 美彦

(名市大昭50)産婦人

村山 和代

(東医昭56)産婦人

八田真理子

(聖マリア)産婦人

内田由紀夫昭56麻酔科

阮 秀山

(台灣中国医学院昭44)麻酔科

青野 光夫

(三重大平2)麻酔科

坂下 美彦平3麻酔科

樋口 佳則平4救急部

佐藤 幹生平5救急部

中村 仁昭53小児科

原田 務

(新潟大昭57)小児科

小森 功夫昭57小児科

久保田博昭平4小児科

坂井 美穂

(埼玉医大平4)小児科

喜田 善和昭52新生児

寒竹 正人昭63新生児

武田 紳江

(北里大平4)新生児

栗山 裕昭55小児科

大塚 恭寛昭63小児科

毛里あかね平4内科

福田 勝之平6内科

石毛 稔

(愛媛大平6)神経内

野垣 理恵

(山口大平5)神経内

高森 尉之平6整形外科

早坂 典洋

(山形大平6)脳外科

長 哲平6耳鼻喉科

金子 透子平7小児科

人事異動

助教昇任

牧野英一(昭42)内科学第二

(同講師より)

丹澤秀樹(昭57)歯科口腔外科

(同講師より)

菅井桂雄(昭51)救急医学

(同講師より)

講師昇任

平井愛山(昭50)内科学第二

(同助手より)

鈴木孝雄(昭52)外科学第二

(同助手より)

岩佐博人(北里54)精神科

(同助手より)

松谷正一(昭51)内科学第一

(同助手より)

藤本尚也(昭57)眼科(同助手より)

篠遠 仁(昭54)神経内科

(同助手より)

島 正之(昭59)公衆衛生学

(同助手より)

原 幸男(東京薬大昭45)薬理学(同助手より)

研修医

毛里あかね平4内科

福田 勝之平6内科

石毛 稔

(愛媛大平6)神経内

野垣 理恵

(山口大平5)神経内

高森 尉之平6整形外科

早坂 典洋

(山形大平6)脳外科

長 哲平6耳鼻喉科

金子 透子平7小児科

藤理事より予算執行状況報告のあと、事業費のうち、るのはな祭と東医体助成金の減額と、会報発行関係支出の増加を見込んで、予備費より充当する一部補正が認められた。なお、同窓会基金への積み立てについては、来年度予算と並行して、年度末に理事会で審議することにした。

3. 同窓会賞選考委員の選出について、鍋谷(昭27)、小幡(昭28、大藤(昭29)、北川(昭31)、近藤(昭33)嶋田(昭35)、増田(昭35)、西野(昭47)の各氏が推薦され、当面、嶋田理事が委員長事務取扱として、るのはな同窓

四金会

日時 平成7年11月22日

場所 はていや

秋の叙勲者、昇任教官を招待して盛大に行われた。

各先生方のご感想は興味深く、和やかで活発な雰囲気の中に閉会となった。

第38回東日本医科学学生総合

体育大会夏季大会結果

第38回東日本医科学学生総合

体育大会夏季大会結果

第38回東日本医科学学生総合

体育大会夏季大会結果

第38回東日本医科学学生総合

体育大会夏季大会結果

第38回東日本医科学学生総合

体育大会夏季大会結果

第38回東日本医科学学生総合

体育大会夏季大会結果

編集後記

は、総合で34校中22位であった。競技別では、硬式野球(第3位)・テニス(男子、第2位)・バレーボール(男子、第3位)が入賞をした。ちなみに、千葉大学は過去38回の大会で16回もの総合入賞を果たしているが、第28回大会での入賞を最後に最近10年間は入賞を果たせずにいる。今後の健闘を期待したい。

昨年は一月十一日に編集会議を開き、二十日に会報を発行しましたが、その間の十七日に阪神大震災が発生しました。本年は平穏であることを願っています。

千葉大学図書館亥鼻分館の地盤工事(一頁下図に地階を示す)の頃は、本館の私の居る角度のところが最も震動や騒音の影響を受けました。近頃はそれもなく、粛々と工事は進行しています。なるべく土曜日曜、年末年始に工事を集中させていたただければ、大学は静かなのですが、そうは行かないようです。

「るのはな随想」には、すでに三人の先生方に執筆していただきました。次にどのような方に書いていただいたらよいか、御意見をお寄せ下さい。(嶋田 裕)